

丸亀で会いましょう

バイリンガルで陽気な讃岐人 エラリー ジャンクリストフさん

エラリーさんは在日15年。フランス語の翻訳会社を経営しながら、妻(日本人)、3人の子どもたちと香川県で暮らしている。さぬき弁でおしゃべりしているとなついつい忘れてしまうが、フランス国籍なのでフランスの選挙権をもっている。海外からインターネット投票もできるが、父親に頼んで代理人投票をしてもらうこともあるそうだ。前もって送られてくるフランス国民議会選挙の投票セットを見せてもらった。カラフルな選挙公報には、それぞれの候補者の個性があふれている。

エラリーさんは、今春のフランス大統領選挙には特に関心をもって臨んだ。祖国の政治の在り方が国際社会に影響を与えると考えたからだ。そして日本投票所の1つ京都フランス総領事館で、第1回投票と決戦投票の2回、選挙管理委員を務めるという重責を果たし、自分も直接投票することで選挙権を行使した。日本での投票時間は、本国との時差を考慮して決められる。投票する人は、受付で投票前に身分証明書を提示してチェックを受けてから投票。投票後は開票者を選び、厳正に開票され本国に報告される。その結果、オランダ新大統領が誕生したわけだが、政権を支える新内閣の大臣は半数17人が女性。女性議員が少ない日本と比べて驚くべき人数だ。選挙や政治の在り方が随分違うようだ。



2012/7/14 ゆめネットワーク講演会  
「フランス大統領選に学ぶ」

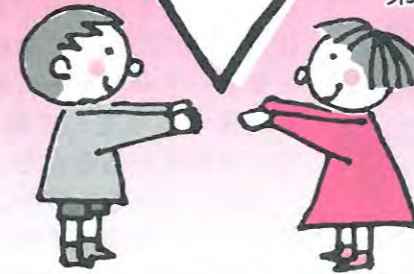


楽しいフランス語講座  
（「ゆめ」の部屋にて）

エラリーさんは、日本に来た当初は様々なことで違和感を抱くことも多かったが、話すことで相互理解を心がけてきた。我が子の通う学校でも、積極的にPTA役員として活動し協力を惜しまない。コミュニケーションこそ信頼関係を築く第一歩。気さくで陽気な人柄に触れ、苦勞を楽しみに変える魔法が使えるのかも？と思った。



第28号



平成24年度男女共同参画モデル保育所 栗熊保育所



家族みんなで洗濯物干し競争

今を幸せに生きる=人口減少に備える まちづくり

衆議院議員総選挙

投票日 平成24年12月16日

丸亀市長・丸亀市議会議員選挙

投票日 平成25年4月14日

選挙に行きましょう



男女共同参画講演会

「ともに支える」介護 男性介護者支援の取り組みから

「人生90年代」を迎える今、年齢や立場に関係なく、男女がともに支え合う介護のあり方について考えてみませんか。

講師 津止 正敏さん

立命館大学産業社会学部教授  
「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」事務局長  
増え続ける男性介護者の拠り所を目指して全国ネットワークを結成し、男性介護の問題を語り合う場づくりや情報発信に力を注がれています。

日時 平成25年1月22日(火) 14:00~15:30  
場所 ひまわりセンター4階 研修会議室1・2

\*託児(無料)あります(定員8名)・手話通訳あります  
<問合せ> 市男女共同参画室 TEL0877-24-8823



Information

図書紹介

ネビルって よんでみた

ノートン・ジャスター 文 G.ブライアン・カラス 絵  
見知らぬ所に引っ越してきた男の子。「ともだちが一人もないなんてサイテー」とブツブツ。ところが、ぶらっと散歩に出て、まちかどで空を見上げながら息を吸い込み、両手を口にあてて、「ネビル」って自分の名前を叫んでみたら…



しあわせに働ける社会へ

竹信三恵子 著 岩波ジュニア新書  
就職難、ワーキングプアなど厳しい労働環境の現実を見据えながら、しあわせに働ける仕組みづくりやしあわせな働き方への方向づけを示唆する。しあわせに働くための自分づくりも大切。自立とは「上手に助けを求めて危機から抜け出すこと」でもある。

編集後記 日本女性会議仙台では、今年1月丸亀で講演された宗片恵美子さんが、開会宣言、コーディネーター、パネリスト、最後には大会宣言と大活躍。丸亀でももっと女性が活躍できるよう、色々な場面でジェンダー・イコールの視点を忘れず、自ら「きめる、うごく」を実践しようと思つた。(K)

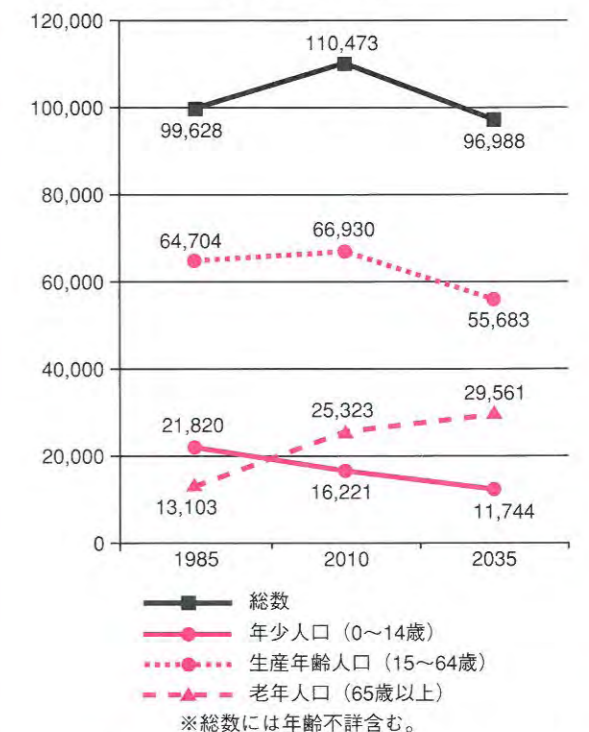
丸亀市の人口は110,711人(2012年10月1日現在)。その人口比率は、年少人口14.8%、生産年齢人口60.8%、老年人口24.4%。4人に1人が高齢者なのに対し、子どもは7人に1人と少子高齢化は止まっています。

丸亀市の将来人口は、今がピークでその後減少に転じ、2035年には10万人を割る96,988人と推計されています。約30年前の1985年当時と比べて減る予想で、問題は世代間比率。年少人口は12.1%、生産年齢人口は57.5%まで減り続ける一方で、老年人口が増え続け30.4%になり、3人に1人はお年寄りのまちになるとされています。

次世代 人口が極端に少ない社会では子育てや介護など家族の問題から、地域社会における防災など住民の安心安全の課題だけでなく、地域の活力源である労働の場や市民活動の場においても担い手不足などの問題点が出て来ると考えられます。

急激な人口減少に今から備えるにはどうすればよいのでしょうか。そして、若い世代が丸亀で住み、歳を重ねたくなるようなまちづくりとは…。今、幸せに生きるまちづくりが、必ず将来の丸亀を支える土台になるはずだ。

丸亀市における人口推移及び将来推計(1985-2035)



<データ出典> 2035年、「丸亀市総合計画後期基本計画」資料、1985年、2010年、「国勢調査」より